

# ごみ日和

京都発！ごみ減量情報誌



人形修理ネットワーク  
「福田匠庵」

サステナブルな大学を目指して  
「立命館大学」

なごみ日和/海平和

新しい時代のコミュニティ・バンク  
「京都信用金庫」

久我の杜自治連合会  
地域ごみ減量推進会議

機内食の現状  
「ロイヤルインフライトケイタリング株式会社」

vol. **87**

ごみにまつわるこの数字なあに？

**2,200** トン

答えは Web へ！

\*トップページ「よもやま話 ごみ減のごみ袋」  
をご覧ください



表紙デザイン：嵯峨美術大学デザイン学科4年 乾志帆

京都市ごみ減量推進会議

～サステナブルな大学を目指して～  
**学生の気づきも尊重**  
**地域と連携し、広がる環境活動**

**立命館大学**

産業社会学部教授 **景井 充さん**  
 衣笠キャンパス地域連携課課長 **大場茂生さん**



京都市北区の「立命館大学衣笠キャンパス」ではさまざまなごみ減量の取組が実施されている。今回、自身も同大学の現役学生である筆者が取材を行った。

**学生の「もったいない」の声から始まった、腐葉土づくりプロジェクト**

毎年秋になると地面一面に広がる落ち葉。それを見て、落ち葉の行方を考えたことはあるだろうか。これまで同大学では、落ち葉を一般廃棄物として焼却処理に出していた。ごみの量を減らせないか、何とか活かさないかと回収した落ち葉を山積みにして悩んでいた大学職員の元に、一人の学生が「落ち葉を捨ててしまうのはもったいない!」と訴えてきたことをきっかけに、キャンパス内の落ち葉の活かし方を模索し、2020年1月頃から腐葉土づくりに取り組み始めた。現在は、落ち葉や雑草を入れておくだけで腐葉

土ができる「タヒロン・ガーデンバッグ®Ⅱ(田中産業株式会社)」(以下、タヒロン)を使用し、キャンパスの落ち葉の腐葉土化と、生協食堂で出た野菜くずのたい肥化も進めている。



衣笠キャンパス学術館横の花壇にあるタヒロン(写真中央から左側)と野菜くず(写真右側)

**森守協力隊とのコラボイベント**

2020年12月5日には、京北地域を中心に活動しているNPO法人森守協力隊との協働で企画された段ボールコンポストのイベントが、衣笠キャンパス至徳館前で開催された。イベントには大学周辺の近隣住民と学生、立命館大学教職員などが参加し、構内のタヒロンで作った腐葉土と京北で作られたもみ殻くん炭\*を基材とした段ボールコンポストを作成した。

参加していた小学5年生の児童は教職員とともに落ち葉の腐葉土づくりに取り組み、どうすれば早く腐葉土化するかなどアイデアも多く出してくれた中心人物の一人だ

いう。イベントでは各参加者が段ボールコンポストとは別に、半分に切ったペットボトルに腐葉土を詰め、構内で拾ったどんぐりを植えた。どんぐりの苗が育てば森守協力隊が活動する京北の森に植樹する予定だ。  
 ※籾殻(もみ殻)を炭化したもの。



構内の落ち葉腐葉土を利用した段ボールコンポストづくりの様子

の飼育に際して、発生する馬糞はなんと1頭につき1年間で7トン!全12頭合わせると、これは25mプール1個分に相当する。現在は学外の業者に依頼しお金を払って引き

**馬糞でマッシュルーム栽培?!**

同大学馬術部では12頭の馬を所有し活動している。馬

取ってもらっているが、この馬糞、実は土壌改良に最適なのだ。消化器官が発達していない馬は食べ物の栄養分の多くを馬糞に残すと言われており、そこに生えるのがマッシュルーム(馬糞茸!)だ。普段私たちがスーパーマーケット

トで目にするマッシュルームは人工的に栽培されているが、元々馬糞に生えることから、馬糞を使って栽培されていたという。将来的には、同大学でも馬糞をたい肥としたマッシュルーム栽培ができないかと考えているようだ。

**ふるしきエコバッグを持とう! in 立命館大学**

2020年11月25日、同大学衣笠キャンパス至徳館地下の生協エントランスにて、一般社団法人ふるしき研究会と当会議の共催でふるしきエコバッグが体験できる「街ふるしき体験」が行われた。

2020年7月にスタートしたレジ袋有料化にともなってエコバッグに注目が集まる今、古き良き日本のふるしき文化を現代にも広めようと市内各所で開催されているこのイベント。同大学では総参加者数が42名、学生のみならず教職員の方々にも参加していただいた。初めてふるしきを結んだという学生からは、「エコバッグにはない汎用性の

高さに感動した」「せっかく京都で過ごすなら和文化を楽しみたい」「結び方を知っていたらカッコいい」とふるしき利用に前向きな声を聞くことができた。今後キャンパス内でふるしきエコバッグを持つ学生が増えたらいいな!



ふるしき研究会の森田代表(右)とふるしき体験をする学生(左)

**地域と手を組み野菜栽培も**



これまで使用していた冷水機(左)と新しいマイボトル用給水機(右)

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として直接口から飲む冷水機を廃止し、代わりにマイボトル用のウォーターサーバーを取り入れた。マイボトルの携帯を推奨し、今後のペットボトル利用の削減を期待している。

さらに、2020年5月に設立されたサークル「きぬがさ

農園Kreis(クライス)」では、地域住民の協力を得て、体育館裏にある元修道院の庭を耕して農園を作り、花や野菜を栽培している。農園では構内でつくった腐葉土が使用されており、収穫した野菜は生協食堂で食材として使用されている。



きぬがさ農園Kreisのメンバーと近隣住民の野菜収穫の様子

**大学から地域への恩返し**

大学を拠点として環境保全の取組を広げていくことは、学生の街京都にとって利点が多くある。持続可能な環境保全活動を行うには、異なる世代間の連携が必須だ。教職員

や学生をはじめとし、地域住民を巻き込んでより多くの人々に影響を与えることができる大学での取組が拡大し続けることで、今行われている環境保全への意識喚起がこれから先、何年にもわたって継承され、定着するだろう。

ふるしき研究会 <http://furoshiki.life.coocan.jp/> TEL 075-432-2722

NPO法人 森守協力隊 <https://npo.morimori.land/> TEL 075-854-1303

きぬがさ農園 Instagram @kinugasanoen\_kreis



きぬがさ農園





## 地域の「絆」づくりに取り組む 新しい時代の コミュニティ・バンク

ゆたかなコミュニケーション室課長 影山 美紀さん  
経営企画部課長 高見 明文さん

### 京都信用金庫

京都・滋賀・北大阪を営業地域に92の店舗を展開し、「きょうしん」の呼び名で親しまれる京都信用金庫。地域社会の“絆”を育む「コミュニティ・バンク」という理念を日本で初めて提唱した金融機関である。「KES<sup>\*1</sup>ステップ2SR」の認証を取得し、環境活動にも力を入れる同庫の、多方面にわたる取組や地域の絆づくりについてお話を伺った。

#### 信用金庫の原点・地域とともに

皆さんは信用金庫の成り立ちをご存知だろうか。いわゆる「株式会社」として利益を追求する銀行とは成り立ちと目的が異なり、地域の人々や中小企業が会員となって出資し、地域の繁栄を図る「相互扶助」の精神から生まれた非営利の協同組織である。そのため信用金庫は「地域との共存共栄」を経営理念に掲げている。京都信用金庫も1923年の創設以来、約1世紀にわたり地域に根ざし、地域とともに発展してきた。

「単なる地域の金融機関に留まらず、お客様のお悩み事も打

ち明けてもらえる、寄り添い伴走するような関係性を目指しています」と影山さん。1971年に提唱した「コミュニティ・バンク」の理念のもと、地域の発展と人々の豊かな暮らしを支えることを使命とし、人、企業、街、地域などを結ぶ「地域の絆づくり」に取り組んでいる。「地域が発展してこそ個人や私たち企業の発展もあります」。顧客よし・金庫よし・地域よし。コミュニティ・バンクとは、近江商人の三方よしの精神と相通ずるものがあるようだ。

#### 「絆づくり活動」で地域との一体感

同庫では地域社会の一員として環境保全活動やお祭り、イベントなどに積極的に参加し、地域の人々との交流を深めている。各店舗では近隣の清掃活動、金庫全体では、桂川や天野川の河川清掃活動、滋賀・絆の森の森林保全活動の他、祇園祭や京都マラソンには毎年100名を超える職員がボランティアとして参加。山鉾巡行エリアの店舗では職員が浴衣姿で接客し、お祭りムードを盛り上げている。各店舗のコミュニティホールやロビーは、地域のふれあいの場でもあり、体験教室やセミナー、地域の皆さんの作品展などを企画・開催し「絆づくり活動」を行っている。「当金庫に来てもらうのはお金の相談ばかりではありません。それぞれの地域や店舗の特性に合った企画を考え、身近な金融機関と感じて頂けるよう取り組んでいます」。

再生可能エネルギーの推進・普及にも力を注ぐ同庫は、店舗を新築・改修する際に太陽光発電や屋上緑化のシステム、LED照明などを導入し、環境にやさしい店舗づくりを実践している。昨年10月には「ハチドリ電力」を導入することを発表。まずは年度内に30店舗をハチドリ電力に切り替える。ハチドリ電力とはCO<sub>2</sub>ゼロの実質自然エネルギーのこと。地球温暖化防止に貢献できるだけでなく、電気料金の1%が社会活動に取り組



地域の人々とともに取り組む天野川の清掃活動

む団体の支援に、さらに1%が自然エネルギー発電所増設に使われるという仕組みだ。

#### 「気持ちがあっても方法が…」という人の取組を支援

同庫は2012年にKESステップ2SRの認証を取得している。地域金融機関としての社会的責任を果たすためであり、さらにはお客様の環境への取組を支援する立場として、自らが環境マネジメントシステムを確立することが重要と考えたためだ。

「KES取得に向けては、エコ推進委員会を立ち上げ組織的に取り組みました。社内書類の電子化やこまめな消灯など、紙と電気の無駄を徹底的に省いた結果、大幅な経費節減が実現しました」と高見さんは振り返る。ちなみに顧客情報を含んだ書類は機密文書の扱いで、溶解処理を行いダンボールとして再生させている。

「取引先の中小企業の方から『SDGsへの取組をしたいが、どうしていいかわからない』という声をよく聞きます」と高見さん。前述のハチドリ電力を紹介すると、そのコンセプトに共感し導入する企業が増えているという。2つのものの固い結びつき、紐帯を「絆」というなら、これもまた絆づくりだ。他にも同庫と他企業との社会的紐帯もたらした取組がある。

衣料品の有名ブランドとのコラボで実現した「子ども服リサイクル活動」。全店舗のロビーにリサイクル箱を設置して不要になった子ども服を回収、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）やNGOを通じて世界中の難民へと届けた。



スーパーマリオ柄のオリジナルエコバッグでプラごみ削減を呼びかけている

また、任天堂との連携で作成した京信オリジナル「スーパーマリオエコバッグ」。レジ袋有料化のタイミングで作り、お客様に進呈<sup>\*2</sup>してプラスチックごみ削減を呼びかけている。

「これらの取組は『環境のために何かしたい。でも方法がわからない』というお客様に『気軽にエコ活動に参加できた』と大変喜んでいただけました」。

#### さまざまな人の「？」が集まるQUESTION

昨年11月、同庫は河原町御池に地域の絆づくりの拠点ともいべき施設をオープンした。名称は「QUESTION」。一人では解決できない「？（問い）」に、様々な業界の人が集まり、交流を通して新たな気づきや発見を得て解決につなげる場に——そんな思いを込めたネーミングだ。学生が運営するカフェ・バー、起業家らが新商品のテストマーケティングができるチャレンジスペース、会員制のコワーキングスペース、シェアキッチン、同庫の支店機能もある。2層吹き抜けの開放的な大階段は70名収容のイベントスペースになっている。「従来の金融機関とは全くイメージの異なる新しいコンセプトの施設です。学

生や起業家、地域の人と人、事業と事業をつなぐ交流拠点にしたいですね」。



QUESTIONの3,4階をつなぐ大階段・コミュニティステップでは様々なイベントが開催され交流が生まれている

#### 日本一コミュニケーション豊かな会社

「日本一コミュニケーションが豊かな会社を作ります」。2018年6月に現理事長の榊田隆之氏が就任挨拶で言った言葉だ。全職員がその意味を熟慮し、何をすべきか考え抜いたという。大事なことは「人」そのもの。機械でできることは機械化し、機械で対応できない人と人とのつながり、人づくりに専念しようという考えに至った。お客様と良好なコミュニケーションを図り、「共感できる新たな価値」を届けるには、一人ひとりが人間力と個性豊かな感性を養うことが必要であるため、ありき

たりの座学ではなく、異文化や多様性を肌で感じられるユニークな研修制度も実施している。

お客様の悩みや課題に対し、知識や情報が足りない時、社内の情報共有ツールを活用して投稿すると、約2000人の職員が読んで実体験や知識、情報などを次々寄せてくれる。お客様の課題解決を2000人がバックアップしてくれる形だ。「コミュニケーション豊かな会社を作る」ことは、お客様の幸せづくりの実現への近道なのかもしれない。

※1…京都発祥の「環境マネジメントシステム」の規格で、「京都・環境マネジメントシステム・スタンダード (Kyoto Environmental Management System Standard)」の略号。

※2…口座開設や所定のお取引のあった個人のお客様にプレゼントしている。詳しくは京都信用金庫のホームページや店頭チラシをご確認ください。

京都信用金庫 本店▶〒600-8005 京都市下京区四條通柳馬場東入立売東町7  
TEL: 075-211-2111 理事長: 榊田隆之 創立: 1923 (大正12) 年9月 店舗数: 92店舗 <https://www.kyoto-shinkin.co.jp/>



## 意外と知られていない機内食の現状

～航空業界ならではの知恵と工夫～

新型コロナウイルスの感染拡大によって厳しい状況が続く航空業界。一日も早くもとの生活に戻ることを願うばかりである。とはいえ、空の旅はこれまでもこれからも、多くの人にとってあこがれの存在。そのあこがれを強く印象付けてくれるのが機内食だ。今回は、世界中のエアラインの機内食を手掛け、QSAI<sup>®</sup>で2009年以来10年連続表彰を受け続けるロイヤルインフライトケイタリング株式会社（以下、ロイヤル）を訪問し、食に関する航空業界ならではの取組を取材した。

### 質の高い機内食を世界中の飛行機に搭載

取扱い会社は世界25社のエアライン。世界中のお客様に満足していただくための機内食は地上における対応とは一味も二味も異なる。アレルギーやウイルス、宗教上の関係で使用できない、いわゆる禁止食材の対応はもちろん、搭乗するお客様の国や地域にあった味付けにこだわるなどの徹底ぶり。そもそも機内食は搭乗する人数分だけ食事を提供するため、調理過程で発生する食品ロスほとんどない。さらにそれだけではなく食材を統一して味付けにバリエーションをもたせることで食材ロスを削減するなど、一般にはあまり知られていないエコに対する知恵と工夫が豊富にあるのだ。



### 機内食ならではの安全・衛生面の工夫

ロイヤルでは1日約1万食の食事を提供している（2019年度実績）。この膨大な食事のうち一度のミスも許されな



い航空業界では食品の安全性を最優先にした衛生管理が徹底されている。例えば、通路をはさんで対面に設計されているホットキッチンとコールドキッチン。冷やすことが必要な食品と、火を通すことが必要な食品は同じ場所で調理をしない。さらに、作った機内食はすぐに食べていただくことができないため、時間ごとに顕微鏡で細菌の有無を確認するなど、地上の衛生検査とはかなり異なる。

### 飛行機からでるごみのゆくえ

国際線の飛行機から下ろされたごみ処理についても通常とは大きく異なる。関税や検疫、さらに密輸防止のため、外国からのごみを国内に持ち込むことはできない。ごみはすべて飛行場エリア内にある専門施設で、手続きをした上で厳格に処理することになっている。

### いつでも飛び立つ準備はできている

新型コロナウイルスの影響により、航空業界全体が大変な状況にある中、ロイヤルでは機内食になるはずであったジュースやお菓子を福祉施設や学校に提供したり、食事を医療従事者に提供したりするなど、機内食を手掛ける企業ならではのホスピタリティを展開している。

最後に力強く語ってくれた。「今できることを全力でやる。そして、私たちはいつでも飛び立つ準備はできている。」ロイヤルの機内食が再び大空を翔る日は近い。

取材協力者：ロイヤルインフライトケイタリング株式会社  
 関西工場 総料理長 渡辺 正浩氏、営業部 営業グループ長 楠和也氏、営業部 関西工場 営業課 顧客サービス係 野中 一寛氏  
 ※QSAI (QSAI AWARD OF EXCELLENCE IN CATERING QUALITY) は IATA (国際航空運送協会) の主催により発足した機内食会社品質監査プログラム。世界レベルで高い基準の衛生管理を実施する企業を表彰。

ロイヤルインフライトケイタリング株式会社  
 〒549-0021 大阪府泉南市泉州空港南1番地

2021年4月1日からロイヤルインフライトケイタリング株式会社は「双日ロイヤルインフライトケイタリング (SRIC)」へ社名変更いたします。

高野拓樹 (2021年2月22日取材)

なごみ  
日和



KBS 京都 アナウンサー  
 うみひら なごみ  
 海平 和

### ●● 第29回 「おんらいん京都マラソン2021」 ●●

この度、私、京都マラソンを完走しました！その名も「おんらいん京都マラソン2021」。今年で10回目を迎えた京都マラソンですが、2021年は新型コロナウイルスの影響で、全国的に増えているオンラインという形での開催となりました。

おんらいん京都マラソン。これは、決められた約1か月の間に、フルマラソンの距離42.195キロを走るというもの。期間内であれば、いつでもどこを走っても、何回にわけて走っても累計でき、その都度アプリに記録していきます。ですのでこれまでフルマ

ラソンの経験がない私でも、気軽に挑戦することができました。自分のペースで楽しみ、ランニング初心者が走る楽しさに気づけたり、私自身、完走した今も定期的に走っているように、走る習慣も身についた気がします。

みなさんと一緒に集まって同じコースを走ることはできませんでしたが、参加グッズを身につけてランニングしている時には、同じグッズを手にした方から声をかけていただくこともあり、心はつながっている気がして嬉しかったです。

コロナ禍でランニングを始めた人も多いと聞きます。私もその1人。大変な世の中ですがそんな時こそ参加しやすく、楽しみながら健康に、というこの新たな取組がSDGsの実現にもつながっていくはず。明るい未来がみえた今年の京都マラソン。

とはいえ、来年は例年のようにみなさんが集まって都大路を走る姿がみられる日が来ますように。その時には、私も挑戦したいです！



海平 和：京都市出身、2010年KBS京都入社。テレビ「京スポ」「news フェイス」、ラジオ「妹尾和夫のパラダイス Kyoto」などに出演中。

## 人と物と。織りなす「もっぺん」物語



第 16 回

### 人形修理職人ネットワーク「福田匠庵」

人形修理を始めたのは2006年。「これなんとか直らへん？」というお客様の多くの声から事業開始のきっかけとなった。

時代の変化と共に、飾る機会が少なくなった人形。さらに、「日本人形＝怖い」というイメージの広がりも生活から人形を遠ざけた。押し入れの奥で長く眠った人形は、湿気やほりきが原因でしみやひび割れができてしまう。そんな人形を可愛らしく蘇らせるのが『福田匠庵』の職人チームだ。



人形修理の依頼は年間約500件。お客さまの希望を一つひとつ丁寧に聞き取ることから始める。人形の制作過程は非常に複雑で、お顔・着物・髪の毛・小物などそれぞれ別の職人がいる。全員が知恵や技を出し合って、ひとつの人形を完成させる。また、陶器の人形や、洋人形の修理にも可能な限り応える。その為、ひとつの職人ではなく、「職人衆」で依頼を受ける。

2階の工房では、職人たちが真剣な眼差しで人形と向き合っていた。「ひとつも同じ修理はないんです。だから、毎回最善の方法を模索しています。」とひとりの職人が語ってくれた。人形に愛と魂を籠めていく様子を見るうちに、私も人形が愛おしく思えた。綺麗なお顔、上品なたたずまい、愛らしい表情、見ているだけで心が落ち着いた。

「人形を美しい姿のまま保つには、定期的に箱から出してあげて、お顔を見てあげる。そんな優しさは人形にも伝わりますよ。」と主宰の福田眞一さん。次の代、その次の代にも愛され続ける人形であって欲しい。福田匠庵の職人衆は、今日も可愛らしい人形と向き合っている。

▶ 人形修理職人ネットワーク「福田匠庵」 HP: <http://fukuda-shoan.com/>

〒600-8173 京都府京都市下京区烏丸六条東入仏具屋町174 TEL: 075-351-6917 / FAX: 075-351-2068

岸さゆり (2021年1月18日取材)



## エコなまちを実現しよう！ 思い熱く、実行力を発揮



左より 小石原直樹さん（久我の杜学区自治連合会会長）、山崎知世子さん、米田恵子さん（久我の杜自治連合会地域ごみ減量推進会議 会長）

ごみ減量はもちろん、積極的な取組が際立つ地域があると聞き、活動されている役員のお三方に話を伺いました。

### 資源ごみ回収実施6年 他地域からも持ち込みが…。



資源物回収風景（2021年2月21日実施）

2012年から「久我の杜集会所」を拠点にコミュニティ回収を町内会で実施。これが軌道に乗り、行政からの働きかけで2013年10月「エコ学区※」に申請。

「ごみ問題にも取り組もう！」と、2014年10月「久我の杜自治連合会地域ごみ減量推進会議（以下、久我の杜ごみ減）」を立ち上げた。

活動の一つが資源物回収。伏見エコまちステーション主導で神川出張所内などを拠点に開始。月1回第1水曜日の午後3～4時に古紙類、使用済てんぷら油などを自宅から持って来てもらい、現場で袋などに入れて分別。伏見エコまちステーションの職員と協力し実施。回数を重ねるうちに口コミで広がり、地域外からも資源が集まるようになった。

### 桂川流域の清掃活動に参加 夏まつりでもごみ減量を呼びかけたい

地域の環境づくりにも力を発揮。桂川流域クリーン大作戦（桂川流域クリーンネットワーク主催）へ自治連合会として参加。13年前から久我橋から羽東師橋までの右岸のごみを拾い歩く。2018年3月は80名（内子どもは23名）の参加があった。

久我の杜小学校の校庭で開催する地域の夏まつりへの参加も、立ち上げ当初からの恒例の事業である。子どもから大人までが参加し、楽しみながらごみ減量への意識を啓発する絶好の機会となっている。

夏まつりでは、伏見エコまちステーションの協力を得て、乾電池、蛍光灯、スプレー缶など資源ごみの回収やごみに関するゲームを実施。また、2016年から京都SKYセン

ター・専門ボランティアの出張により「おもちゃの病院」を開くことも。壊れたゲーム機などを修理してもらい、子どもたちも大喜びしてくれたという。

### 生ごみたい肥で栽培した大根 鮮度バツグンで好評

久我の杜ごみ減で活動する山崎知世子さんは、2020年

8月2日エコ学区ステップアッププログラム「フードマイレージと地産地消～段ボールコンポストを始めよう～」を受講後すぐにたい肥化を始めた。動物性のもは入れずに野菜くずを中心に生ごみを基材の入った段ボールに入れ、米ぬかを上からかけて混ぜ合わせることを繰り返して約1か月、10kgの米袋3個分（20kg程度）のたい肥が完成。10月末、熟成したたい肥に大根の種を蒔くとすくすく育った。1月には収穫し、ご近所の方におす分けすると「新鮮でおいしい！」と喜ばれたと、山崎さんは笑顔で語った。



大根のプランター栽培

### 「憩いの場」を作り エコなまちへ、前を向きたい

学区内では新築マンションなどが増え、自治会への加入や昔からの住民との交流が少なく、環境関連の情報が行き渡りにくい。米田会長は、久我の杜神川出張所の多目的室を活用して、「気軽に交流できる『憩いの場』を作れないか」と思いを語る。例えば、不要なものを必要とする人に手渡す譲渡会を企画し、お互いの顔を見ながら情報交換ができれば、みんなが力を合わせて、ごみ減量の成果も上がり、地球温暖化防止活動も前向きになるに違いない。この一年は活動が制限されたが、蓄えた行動力を発揮し「環境にやさしいまち、久我の杜」の実現に向かう、久我の杜自治連合会地域ごみ減量推進会議。応援してますよ！

※エコ学区とは 京都市では二酸化炭素量の削減を図るため、環境に優しい暮らしへの転換や省エネなど地域ぐるみでエコ活動に取り組む学区「エコ学区」として支援している。市内の222学区が活動中。

森田知都子（2021年1月23日取材）